

ワインで村おこし! スペインのポレラ村とリュイス・リヤック

毎年11月第3木曜日は、ポージョレ・スーポーの祭典日だ。世界で一番早くフランスの新酒が飲めるとあって「初もの好き」な日本人の間ですっかり定着した。最近ではスペイン・ワインも脚光を浴びてきたようで、スペイン産、いやカタルーニャのプリオラート産ワインをインターネットで検索すると、出るわ、出るわ。

200万都市のバルセロナから高速道路で1時間ほど南下するとローマ遺跡の残るクラゴナの町に到着。

「ここからさらに内陸部に向かって車を走らせると、山々が新り重なるような風景に出くわす。じつと目を凝らしてみると、山の斜面いっぱいにはびこるよく育った木が植わっている。私が訪れたのは02年1月21日だったので、ブドウ畑は枯れ木のように見えたが、このあたりはプリオラートといわれるD.O. (原産地統制名称) をもつスペイン・ワインの産地なのだ。

ポレラ村は、そんな山あいにひっそりと身をよせるようにたたずむ小村だ。都市生活とはかけ離れた時間の流れがここにある。あたかも旧世紀にまぎれこんだようなゆっくりにした生活のリズムだ。(拙書「酒のうた」を追いかけ

て) 言葉が友社より)。
 12世紀にカトリックの僧侶たちがワイン醸造をプリオラートに導入した。何世紀にもわたって経済基盤となったブドウ栽培。20世紀初頭に害虫フィロキセラが発生したため北米種のブドウの根茎を台木に接木して生き延びた。樹齢100年の古いブドウの木がもつた。50年代にはアルコール分の高いワインを求めたボルドー・ワイン業者がポレ

ラ村のワインを買い上げた。つまり下請け生産だ。これが終わりを告げると隣りにポレラ村の経済が急降下。より収入源になるヘーゼル・ナッツやアモンド栽培に転向するしかなかった。愛する大地よ/熱く抱きたる愛人のように/愛する僕の大抵/日一日と薄くなった僕/肌と肌が融れ合い/からだで覚える/僕たちの夢が叫ぶように

「ポレラ」リュイス・リヤックが95年にカタルーニャのレーベル「Castaño」よりリリースしたアルバム「ポレラ (Povera)」には、同曲を含め10曲が収録され、ポレラ村への限りない愛着を歌っている。ヘーゼルナッツの実をあしらったCDジャケットは、ブドウからヘーゼル・ナッツ栽培への転向を象徴なくされたポレラを象徴している。



CD「ポレラ」のジャケット

るようだ。

リュイス・リヤックは移民。フランス国内に近いうエルジュエスで生まれたが、母がポレラ村出身だったので、4歳5歳の頃から夏休みにかけ、夏休みは必ずポレラで過ごした。50年代半ばにブドウ畑や家屋など天板母ビラルルウアイの遺産を受け継いだ母は、ブドウの代わりに高級人の道が約束されたヘーゼルナッツの木を植えていく。ポレラ村の歴史そのままに。80年代に今度はヘーゼルナッツの価格が暴落して行き詰ると、職を求めて隣接都市に働きに出る村民が増え、ポレラ村はますますペットタウン化していった。そんな状況の中、90年代初めにリュイス・リヤックは母の遺産を相続した。

「ポレラに住もうと決めたとき、掘りから頭がおかしくなったんじゃないか」と言われた。仕事も報酬もなかった。でも、僕はポレラで別の世界、別の生き方や人間のまなざしがあることを発見した」と、リュイス・リヤックは最近刊行された「ヴァイ家の御曹司リュイス・リヤック (Luis Llach, el noi de Cal Vall) (Castalia Edicions) の中で語っている。

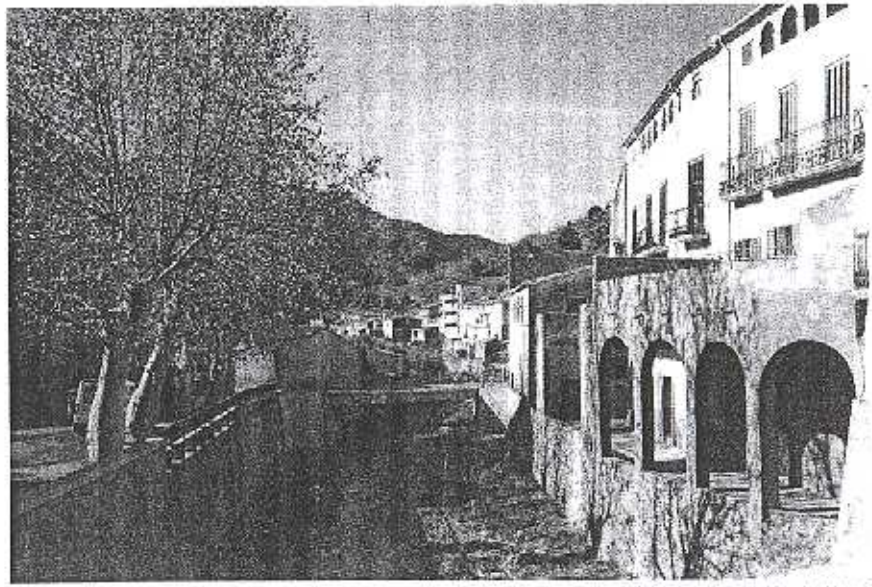


「書籍「コタイキ」の表紙

著者の一人、シシター・ハイムント(ジャーナリスト)によれば、94年10月10日にポレラ村を襲った大洪水がリュイス・リヤックの決心を揺るぎないものにしたらしい。ポレラ村が経済的に立ち直るには、農業したブドウで最高

級のワインづくりしかない」と確信したリュイス・リヤックは、母から譲り受けた土地と別に購入した土地にブドウの木を植えていく。こうして友人2人と共にワイナリー「ヴァイ・リヤック (Castaño, Valles)」を設立した。

協同組合とワイナリーのシナジーだ。ポレラ協同組合に集められたブドウをアルコール発酵させたものをワイナリーに売るという方法だ。少量だが最高の質のワインづくりを目指したこの「村おこし」は10年後に



ポレラ村 (photo by Kazuko Ueno)

もう一人の立役者ホセ・ルイス・ベレス (J.M. Mas, マルティネ) の所有資産に「シム・ア・ポレラ」を設立。とりユイス・リヤックは、ワイナリーばかりが利益を得るのではなく、農民にも適正な価格を支払われ、ブドウ栽培で生活できる方法を考えた。それが、村おこしプロジェクトの基礎となった。

只事に開花した。今や12社のワイナリーを数えるほどになったポレラ村のワインは、スペイン国内はもとより、米国、イギリス、ドイツなど世界中で高い評価を得るようになった。ちなみにお値段の方は、1本1万円は覚悟のほどだ。

植野和子